

——本日は、高齢者の在宅生活を支えている専門職の皆さんにお集まりいただきました。どんな取り組みをしているのか教えてください

**吉富** 三島市医師会では、市と協力しながら、医療や介護が必要になっても、できる限り住み慣れた自宅で生活できるように在宅医療の取り組みを進めています。その一環として、平成29年5月に「三島市医療介護連携センター」を立ち上げ、在宅医療を含む医療に関する相談に応じています。（※6ページ参照）

**渡部** ケアマネジャーは、本人や家族から困り事を最初に伺うことが多く、どんなサービスにつなげていけばよいか、コーディネートする役割を担っています。

**杉山** 具合が悪くて通院できなくなった人などを対象に、医師やケアマネジャーの依頼を受けて自宅に訪問しています。その人が生活している場に伺うので、医療面と生活面の両方の視点をもちながら、医師の役割を補完しています。定期的に訪問しているので、病状に変化があった時には迅速に医師につなげています。

**綿引** ホームヘルパーは、本人ができるだけ自宅で生活できるよ

## る専門職に聞く をするためには・・・



杉山恵美子さん

三島市医師会訪問看護ステーション所長  
訪問看護師。医師と連携しながら、自宅での看取りを多数支援している。



綿引とよみさん

コスモス三島所長  
ホームヘルパー。利用者の自宅での生活習慣を尊重しながら、介護や家事の支援をしており、看取りも経験している。

**綿引** ホームヘルパーは、一番本人の変化を察知しやすい立場にあります。その変化を他の専門職につなげ、本人が安心して生活し続けられるように、その人の普段の生活を支えていきます。

——今後、ますます高齢化が進展し、多死社会が到来します。今回、市民の皆さんに看取りガイドを配布しましたが、人生の最終段階に向けて、どんな準備や心構えが必要ですか

**吉富** 「どのように生きたいか？」の終着点が「どのように最期を迎えたいか？」につながっていくのだと思います。三島市医師会では、市と協力して看取りガイドを作成しました。いろいろな機会を捉えてどのように最期を迎えたいか、本人や家族で話し合ってみてほしいと思います。

**渡部** ケアマネジャーは、本人や家族の意向を確認しやすい立場にあります。「今後、どんな暮らしをしたいかか？」という思いを、安心してケアマネジャーに打ち明けてください。

**杉山** 最期を迎える時期に病院に行くと、本人の意思に反して延命治療を受ける場合があります。自宅で介護し、看取することは大

うに、本来もっている能力を尊重しながら、入浴・食事などの介護や掃除・買い物などの家事支援を行っています。本人の生活習慣に合わせながら支援に当たっています。

——2025年には団塊の世代がすべて75歳以上になり、医療と介護の両方を必要とする人が急速に増えることが予想されています

**吉富** 末期がんや胃ろうなど、高度な医療を必要とする高齢者が増えてくると思われるので、そのような人を自宅で診ることができる医師を増やしていきたいと考えています。また、在宅医療を行う医師もまだまだ足りないので、若い医師にも加わってもらえるような環境づくりをしていきたいです。

**渡部** 今後、認知症や独居、高齢者のみの世帯などが増えてくると思われれます。ケアマネジャーだけでなく、さまざまな専門職とチームを組んで、本人の「ときどき入院ほぼ自宅」を実現できるように、医療職と介護職をつないでいきます。

**杉山** 自宅での看取りの支援や相談にも応じています。一番身近で相談しやすい医療職として、気軽に相談してほしいと思います。

## 在宅生活を支え 「自宅」という選択



渡部美保子さん

居宅介護支援事業所ふじしろ 主任ケアマネジャー  
ケアマネジャー。居宅介護支援事業所のほか、複数のデイサービス事業所を運営し、利用者の自宅での生活をサポートしている。



吉富雄治さん

宮内まこと記念クリニック院長  
三島市医師会 副会長。現在、市と連携しながら在宅医療の推進に取り組んでいる。



本号とともに、看取りガイド「人として最期を迎えるとき」を配布しました。人がどのように最期のときを迎えるか、日ごろどのような準備や心構えが必要かをまとめましたので、ぜひご覧ください。

変ですが、訪問看護師は24時間体制で訪問しているので、安心して最期を迎える・看取れるように、困った事があればいつでも連絡してほしいと思います。

**綿引** 介護者である家族には、ゆったりとした気持ちで本人に関わっていた方がいいので、家族だけではなく、手助けしてもらええる専門職が周囲には大勢いることを知ってもらいたいと思います。

**吉富** 「あそこに行きたい」、「あれがしたい」など、小さな希望や夢から話し始めてください。面と向かって延命治療の話から始めてもなかなか進まないと思います。家族が話をしたいと思った時には、すでに本人が話せない状態に陥っていることも多いので、元気なうちから何度でも話し合ってください。